

騎士と王子の秘密の夜





墮天せし者
片翼の魔王が
人の世に現れて
百余年：

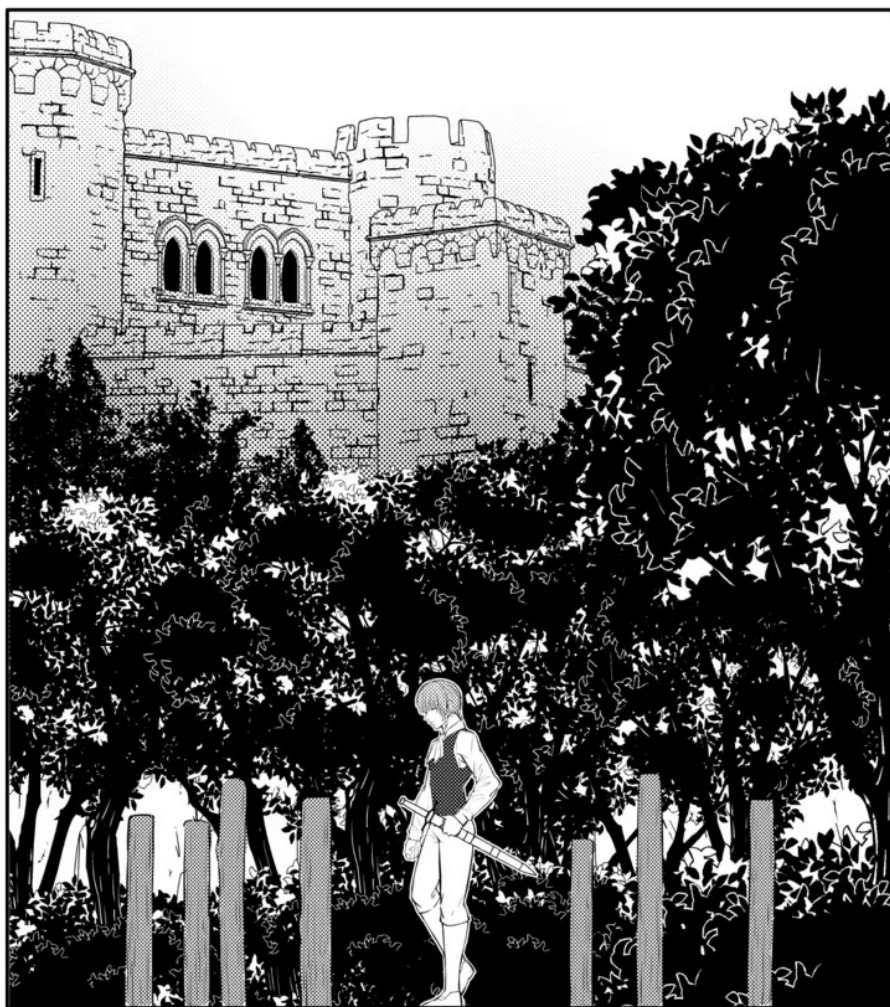
天地には魔物が溢れ
今なお人々を
脅かし続けていた

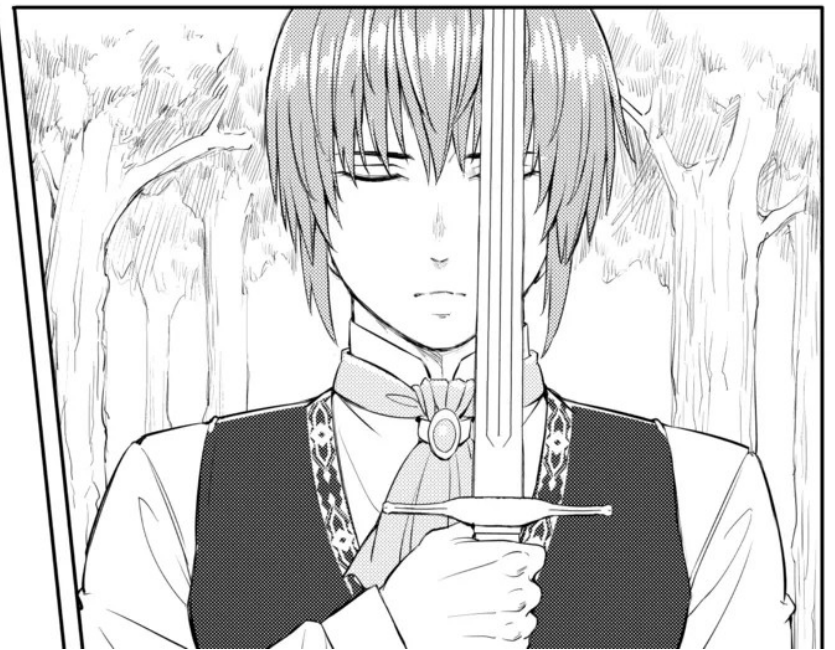
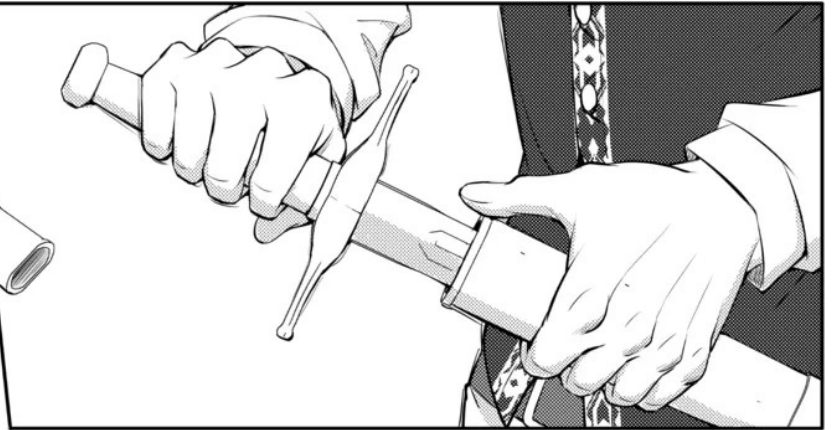
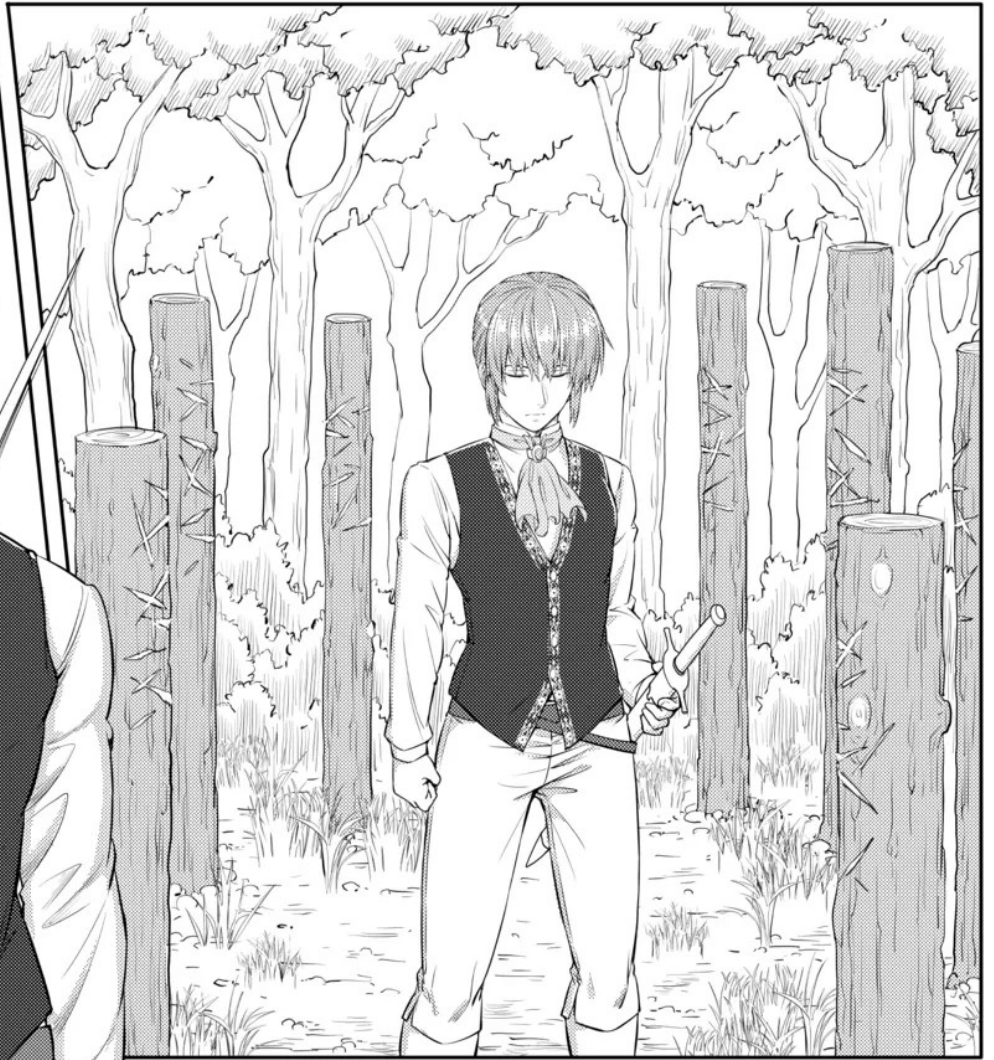


そして今
一つの王国に…

不吉な影が這い寄る

黄金歴847年
ファルシア王国









太刀筋を
迷うと…

あっと…



あ

ズル!



おっ

とっと…



…ひどい
人ですね

気配を消して
私の拙い剣技を
見ていましたね?



や…やあ
レイナード

いつの間…

斬れるものも
斬れませんよ

フェリル
殿下

申し訳
ありません

出立前に殿下の
お顔を見て
おきたかった

ウォルター・
ガーランズ卿

彼を含む三人の
聖騎士はまさに
一騎当千…

この王国を
守る要である

レイナード・
ソロモン卿

マクシミリアン・
クレイブス卿

それに…

この王都にも
不穏な気配を
感じます

城の裏庭とはいえ
お一人で出歩くのは
お控えいただきたい

レイナードは
私の剣の師だ

そう進言に
参った次第…

だがここ数年…
魔物たちの王国への
侵入はおびただしく

聖騎士は対応に
追われ、遠征を
繰り返していた

今は半年に一度
会えるかどうか…

僕のことより
ご自身の身を
案じてほしい

帰った
ら…

また冒険譚を
聞かせてくれ

もちろん
です…

此度も必ずや
生きて戻り…

御身の
元に…

8年前…彼は
私の剣術指南役
として王都に
召し寄せられた



幼かった私は
こう思った
ものだ



夢にまで見た
理想の騎士



この華麗な
若武者は…

絵物語から
抜け出てきた
に違いない



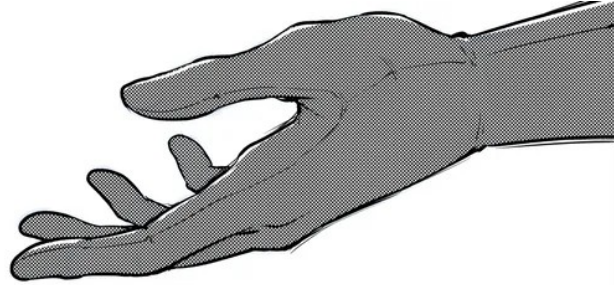
剣術と…



彼が私に授けて
くれたものは…



恋する悦び

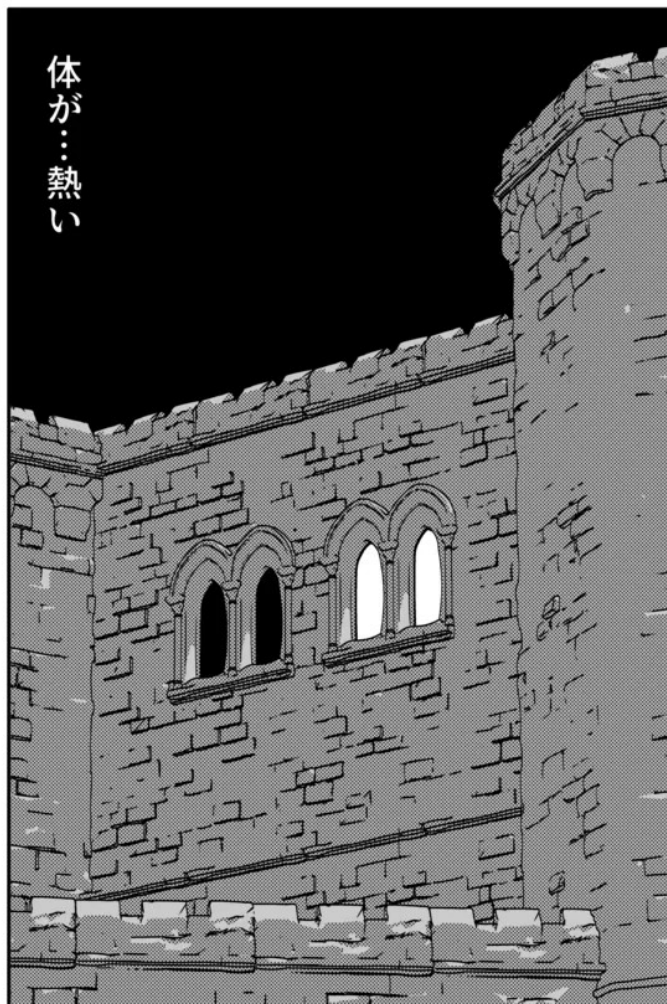


：そう時間は
掛からなかったけどね





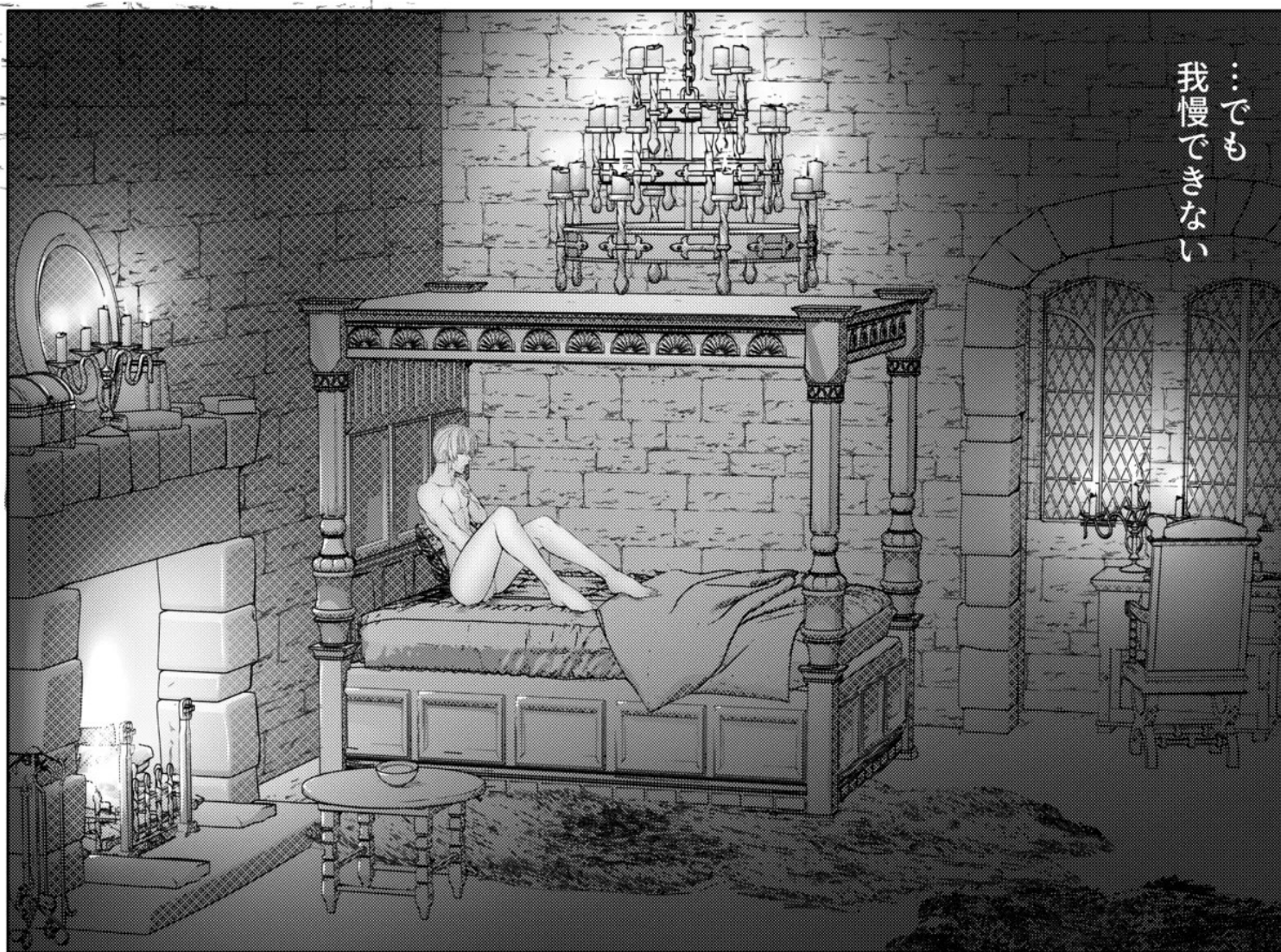
彼は戦いに赴く
というのに…



体が…熱い



…こんなこと



…でも
我慢できない

身体が熱く疼いて…
止められない

あ…

ああ…

ん

うん

はあ

ん

ん

う

うう…

レイナードオ

んっ

う…

ん

はむ…

んきゅ

会いたい…

もっと一緒に
いたいよお…



彼に…
抱かれない



キ…ス…
したい



…わかってる

あっ♡

んっ

んっ

あっ

はあっ♡

神に仕える
聖騎士と
そんな俗事
は出来ない

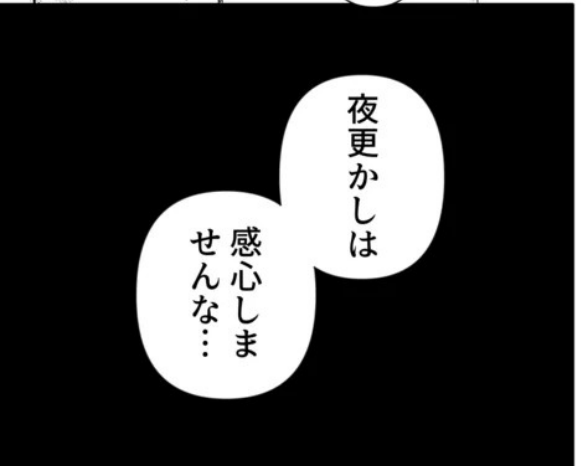
レイナード

…好き

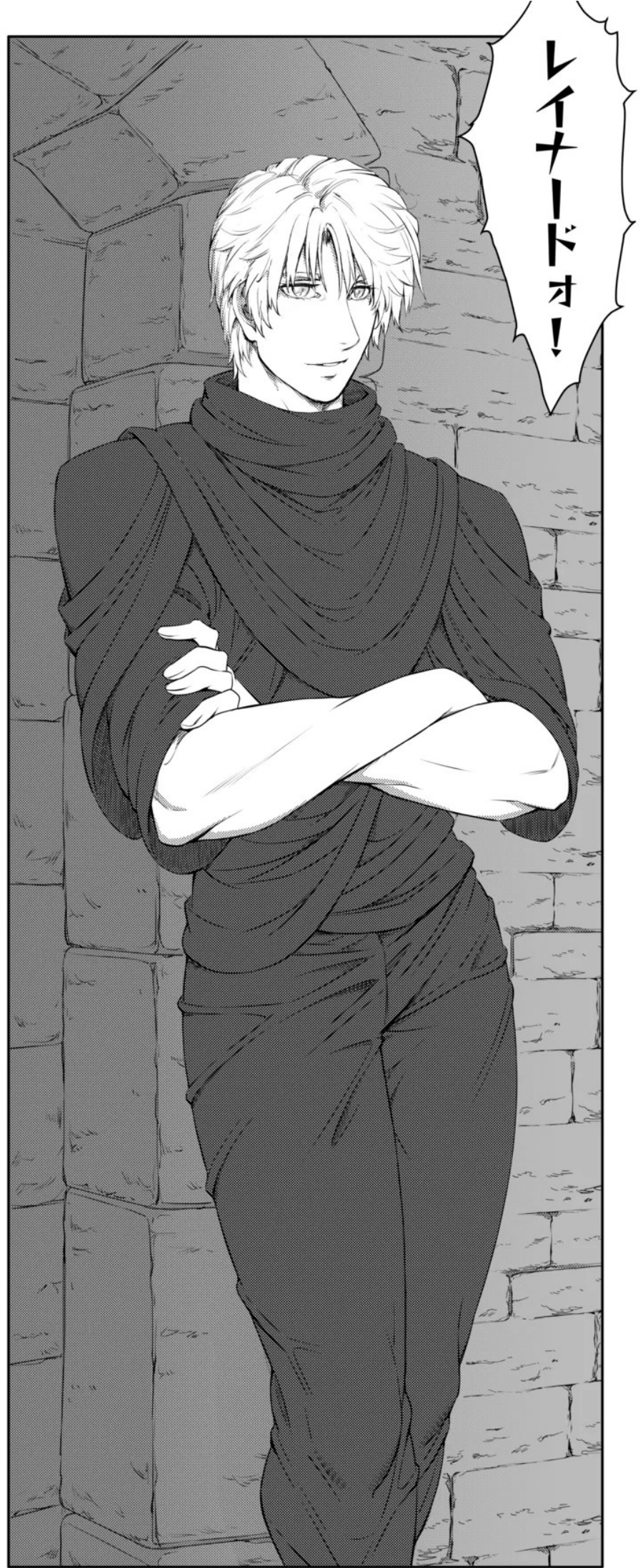
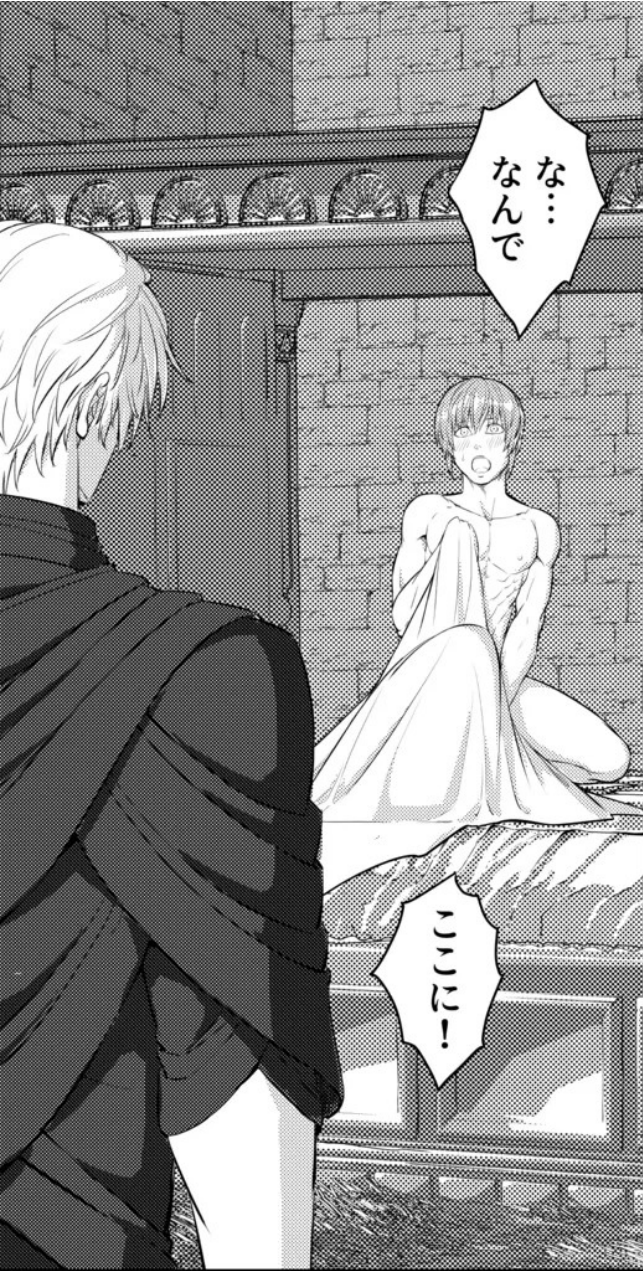
んっ
んっ

大好き…

大好き
だよ…











ん？



何を
驚かれる

あ…
あの

私が
気付かなかった
とお思いか？



困った
お方だ

いったい何処
で調達した
のやら…

ひゃあああ！



葛です
か…



やれやれ



レイナードオ

レ...

何を...



続きは私が
して差し上げ
ましょう...

あ...

あっ...



はあっ♡

んあっ♡

ンツツ



お楽しみの
邪魔をした
お詫びです



ヒュ...

ア

い...
いや...



いじっている
のですか？

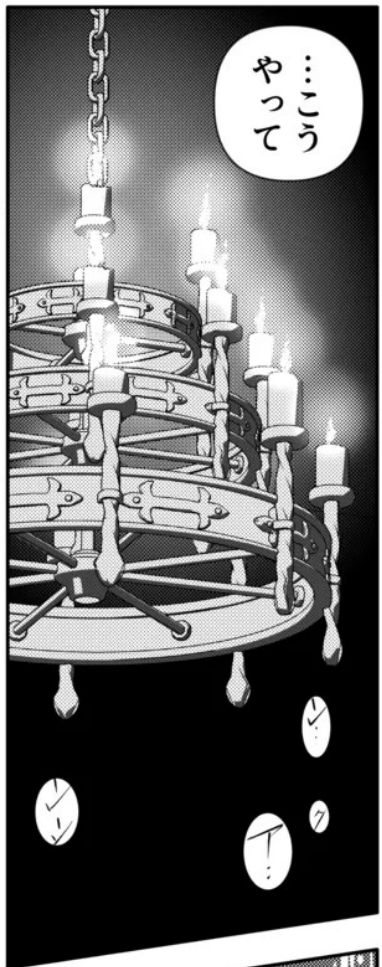
毎晩
ここを

あ？

んは…

ちよつ…
待って

あふう！
あ…



…う
や
って



アッ
アッ
アッ
アッ



だ…メエ

出ちゃうう

あ？

はあう

あう

出ちゃう
よお！



ああ…
素晴らしい

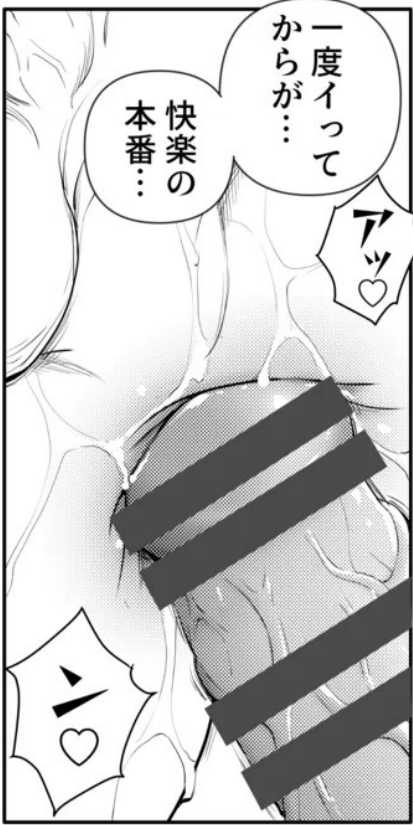


お尻だけで
こんなにも
感じるなんて

受け入れ
準備はもう
出来ている…



…という
ことですか



嬉しい
気持ちいい

なのに何だろう？
この違和感は…

ハ
だけど…
しゅごく

ア
気持ち
いい…

でも…
聖騎士が…
こんなこと

今日の…
あなたは

なにか
いつもと
違う…

何も…

ヒヤ♡

ぞ…

ダメえ

違いは
ありません



如何
ですか？

後ろから
抱えられ
激しく
突かれるのは…

イヤ
アッ

アッ

まるで
犯されて
いるようで

興奮する
でしょう？

こうすれば
さらに…

アウウ

気持ちよく
なれますよ

ウウ

やっぱり
おかしい

そ……こお

そんなに
……つよく

アッ

体が求めて……
止められないい

ンウ

しこしこ
……しちや

ハ
ア
ア

ン

ダメ

凄くマズい
気がする……けど

ハウ

ダメダメエ

アッ



情欲に流されて

あっ…

あう

何やってんだ
僕は…

さあ…
今度は
お口で…

ウウッ

ング…

ンッ

…この人は
レイナードじゃない





なかなかの
演技だった
ろう？

手薄になった
この城にも
楽々侵入できた



誰？



…ん？
おやあ…

流石に
気付いて
きたかあ



…声が！
ウッ

ウブッ

だが…
もう遅い

王族を
亡き者に
すれば

こんな小国は
簡単に滅びる

んぐ...

うぶっ

ぐっ

ズ
ア!

カ
ハ
ア

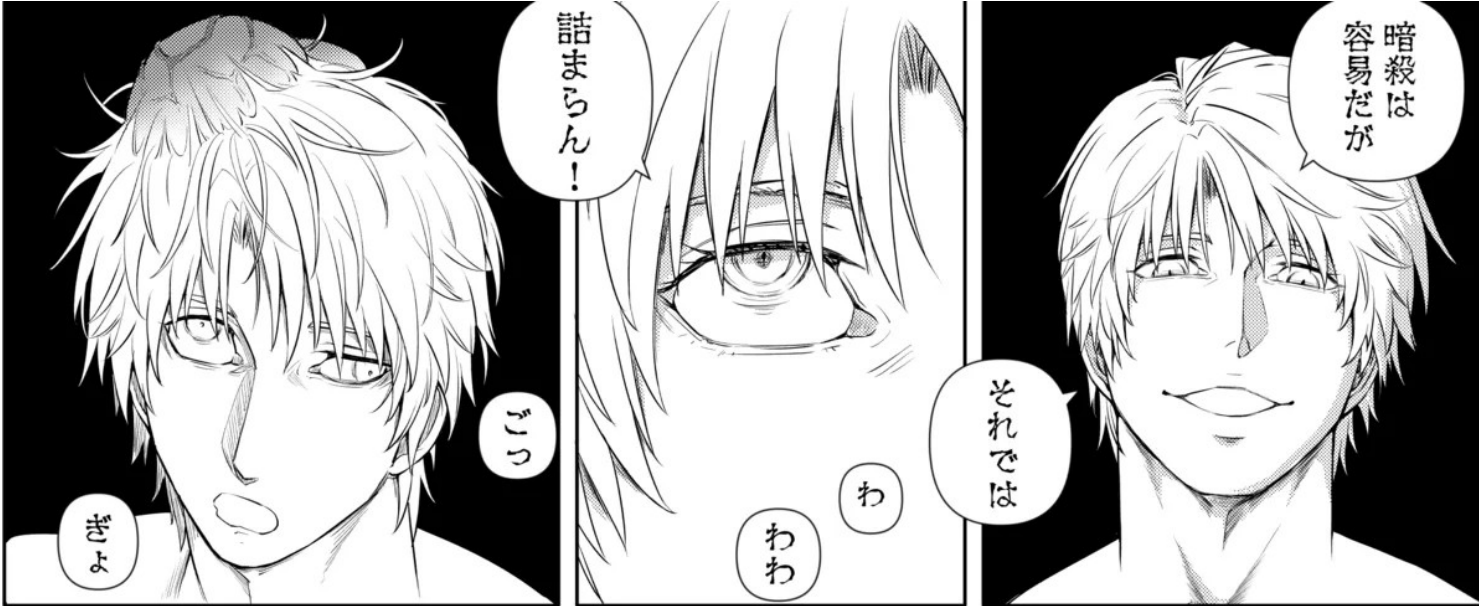
身体が燃える
ように熱い...

頭がくらくら
する...

な...んだ

ハア

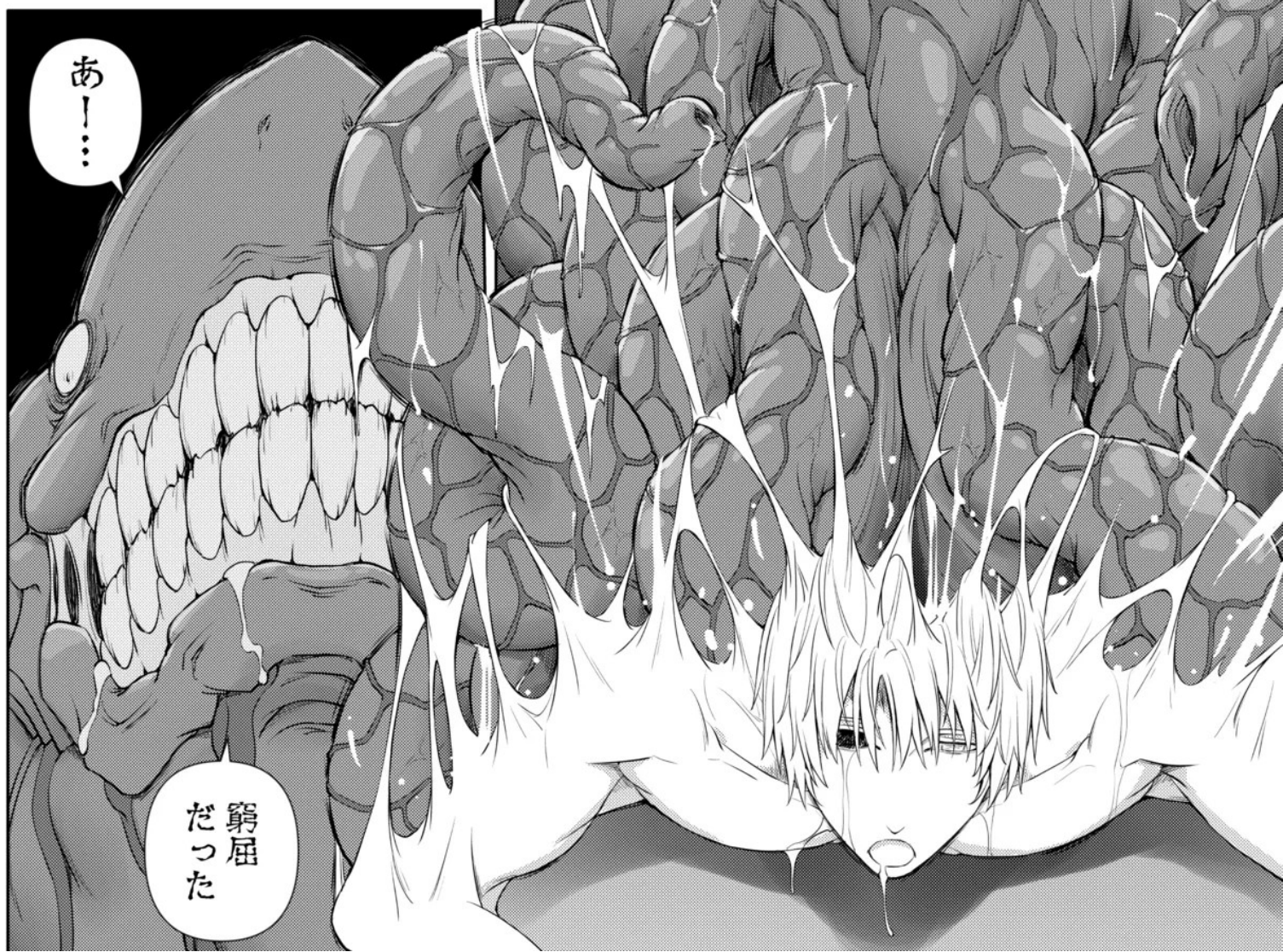
ハア





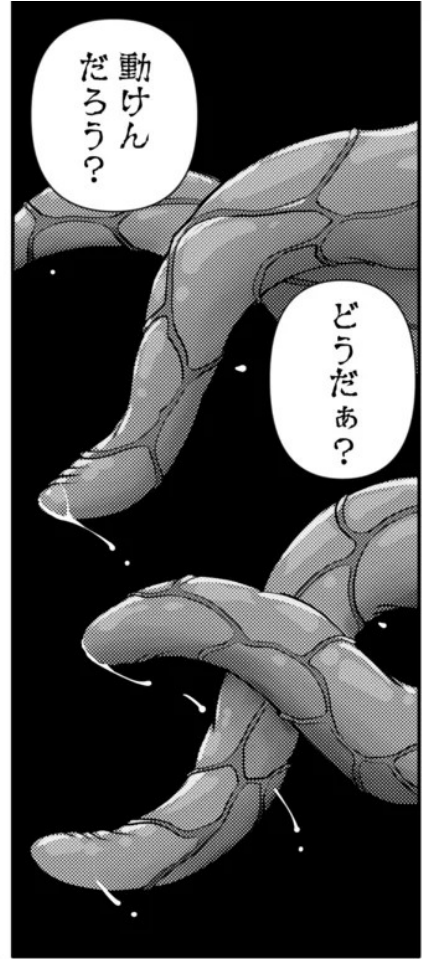
ギ
イ
イ
イ
!

ギ
ッ





俺の体液を
飲んだから
なあ…



動けん
だろう？

どうだあ？



これでてめえを
好きにできるって
訳だあ王子様あ

ひあつ

んあつ

やつ…

やめつ
てえ

はあうつ



特に…

ここは
なあ…

ふああ



ダメ…

ダメえ

ダメ
ダメ…



全身の神経も
膨らんでえ

感度百倍
だよおん

あっ

あっ

はあっ

んっ

ツッ!

ハアア!

んんっ



吸うなアア

スツ

ヤメツ
ミてえ

イヤ

イツ

アッ
ニアッ

ハアッ

出るうウ

出ちやうウ

ハアアア!

オツ

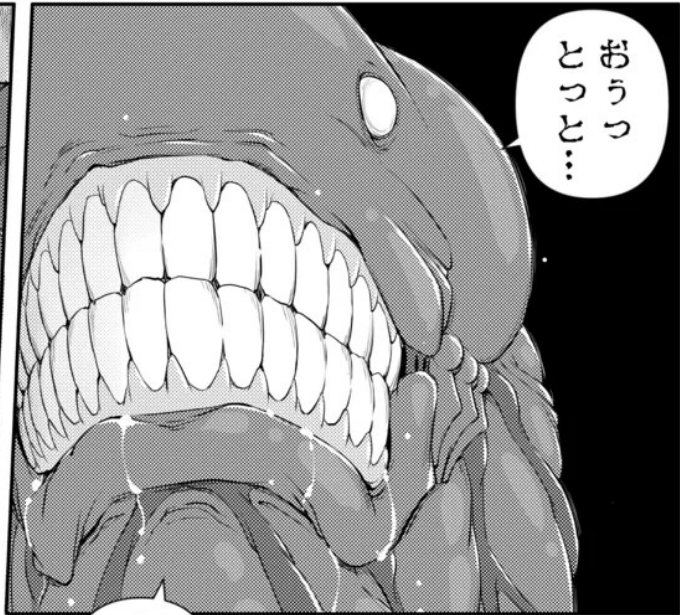
オオイン

オウツ

オオイン!

ツ

ウウツ



おうっ
とっと...



忘れてたあ

フ
ア

ヒ
ヤ



乳首も
たあつぷり

苛めな
きやなあ

ラ
メ
え

乳首
ラメえ

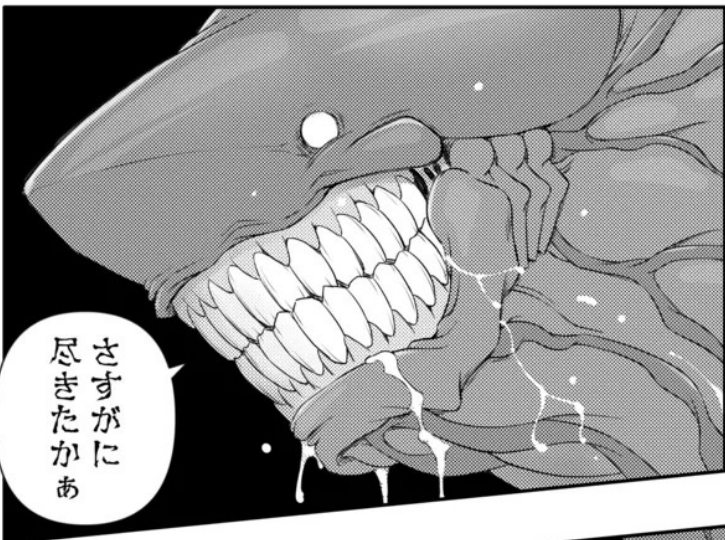


ク
ハ
ア
ツ

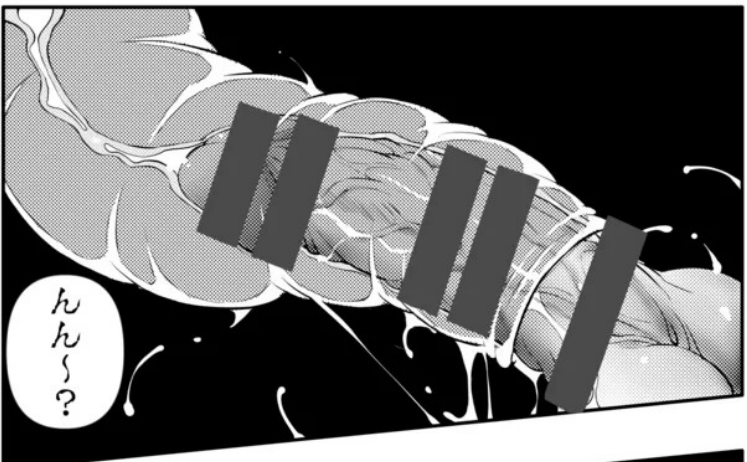
シ
ア
ツ

ア
ツ

ア
ツ



さすがに
尽きたかあ



んん？



どう
だった？

あ…

連続絶頂
はよお

はう…



んじやあ

もっと
楽しいこと
しよつか♪

あうう

う…

は…
なせ…

…離せ
よおお



誰がてめえの
意見を聞いたよ
クソガキイ

そういうのは
好みじゃねえって
さっきも言った
よなあ！



でえも♪



入らな
い...

てめえは
黙って…

ガ
アッ

犯されて
ろっつうの！

アッ

ア
アッ

ク
ア…

今から王子様の
腹ん中にい

魔紋を
刻むぜえ

ウッ

そしたらてめえは
俺が与える快楽にい

抗えなく
なるう！

ヒ
ギイ

ク
ウ



まずは父王を
殺して王位を
篡奪…

悪政の限り
尽くそうかあ

愛しの
聖騎士様も

ぐちゃぐちゃに
犯してやろうぜえ



そおれ
魔紋があ

浮かんで
きたぞお！



これで
この国はあ

我が主の
ものだあ…



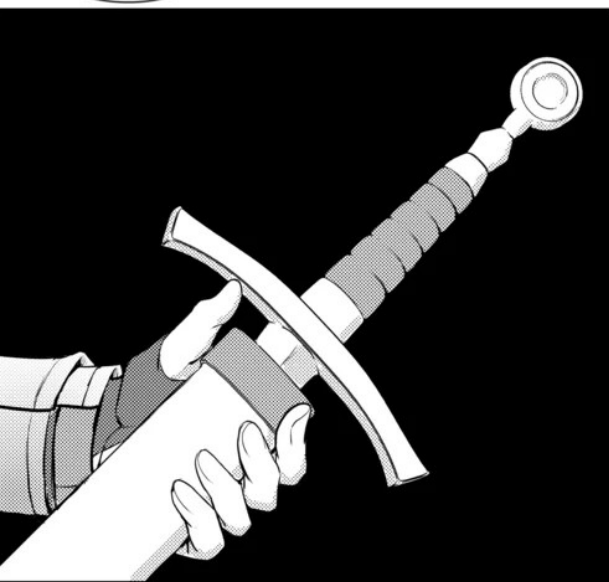


キヤハツ
また盛大に



たのち

噴き出した
なああ!



アッ

アッ

アウ

アッ



とめ…て

と…め

アッ

アッ

不穏な気配を
辿ってみれば…

およう？

こういう
事か…

ヒエッ…聖騎士！

何故ここに…

薄汚い
化け物！

殿下を
はなせ

あ：あんたの
ことは知って
るぜえ：

有名人
だもんなあ

魔神斬りの
レイナードオ

そんなに
怒んなってえ

ぜッ！

この餓鬼
はなあ：

あんたを思っ
ずっと一人で悶々
としていたのさ

それを俺が
慰めてやっ
てるって訳

感謝して
ほしいだ：

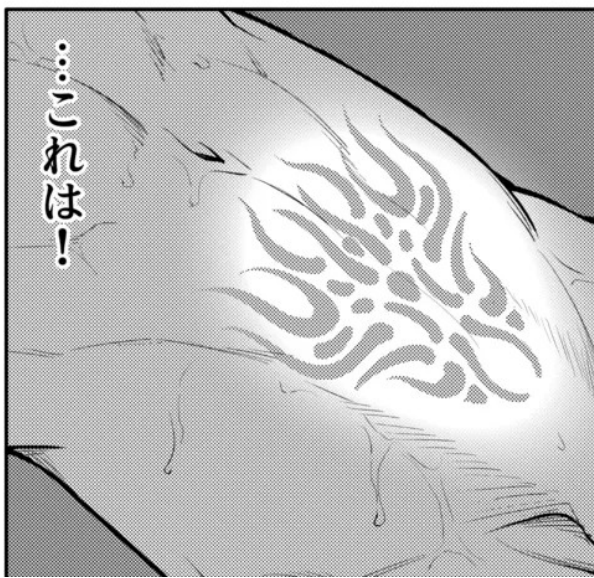
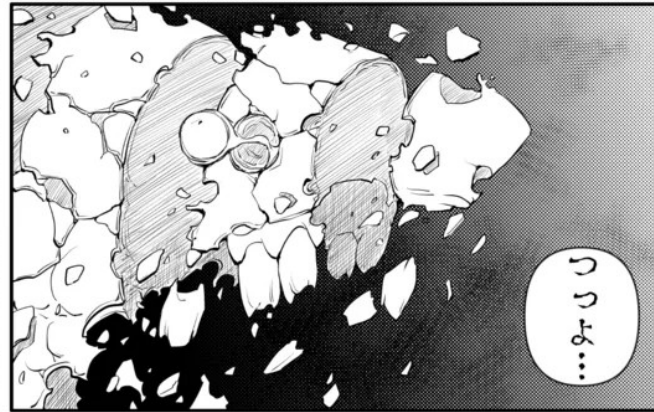
ほえ？

貴き方を
ガキ呼ばわり

何たる
不敬…

バ
ベ
エ
エ！





そいつはなあ
レイナーだ



体内に刻まれた
魔紋が暴れてるのさ

満足するまで
その疼きは
止まらねえよ



安心しな…
その魔紋が
消えるまで



俺が何度でも
抱いてやるよ

殿下…

しばし
お待ちを！





…殿下



上手くやれる
だろうか？



私に…



今、冷まして
さしあげます

その熱…

ハッ

ハッ

ハッ

ハッ

ハッ



人が人を
愛するは
自然の理

ご自分を
責めないで

薄々
気付いてはいた

殿下にそのような
お心があることを...

私に身を
ゆだねて
ください

今は
ただ...

そういう
お年頃に...

あ...

はっ♡

んあ...

...なられたのだな





いずれ我が主君と
なるこの方に…

ハアウ…

アッアア♡

ハ…

劣情を
抱くなど…

ハアア♡

これはあくまで
治療行為…

…お許しを

いいよお

…きてえ





これは治療
…只の治療なのだ

私も！

お慕い申して
おりました…



初めて
お会いした
あの日…

自分に
愛らしい弟が
出来たようで

…本当に
嬉しかった

そう自分に
言い聞かしたはず
…なのに…なのに

ああ…チクシヨウ

あ…ん…
もう一度…
…言って

あ…はあ…
レイナード

ハア

僕のこと…
…好き?

ハア

ええ…
好きです

ハア

ほんと?
本当に?

…ええ
ずっと
前から

アッ!

レ!

ん…あ…
レイナードオ

ハ!

フェリル

…フェリル

ハア

レ!

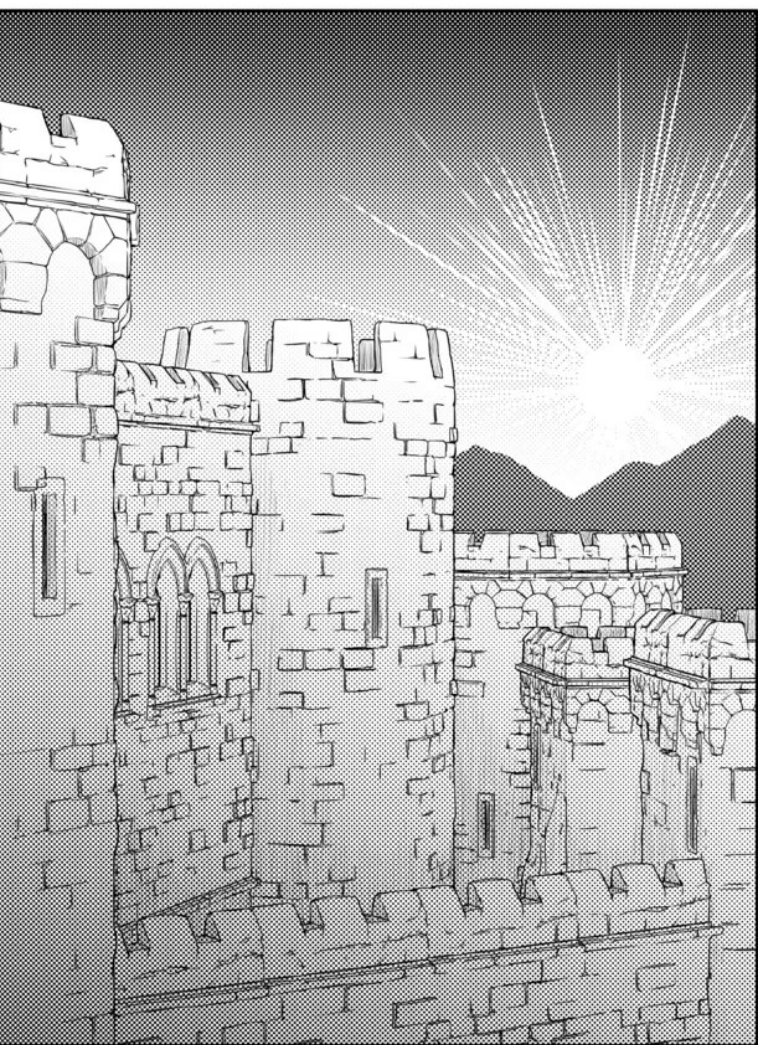
…愛おしい

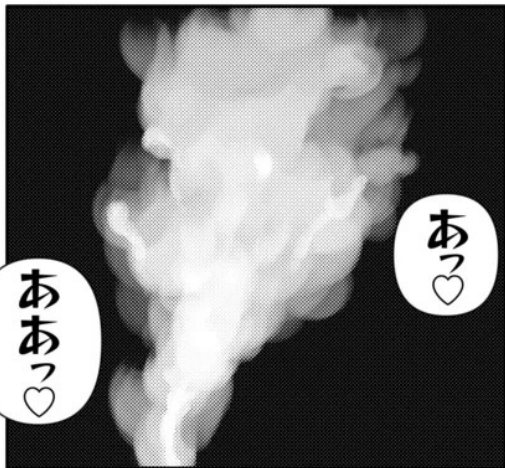
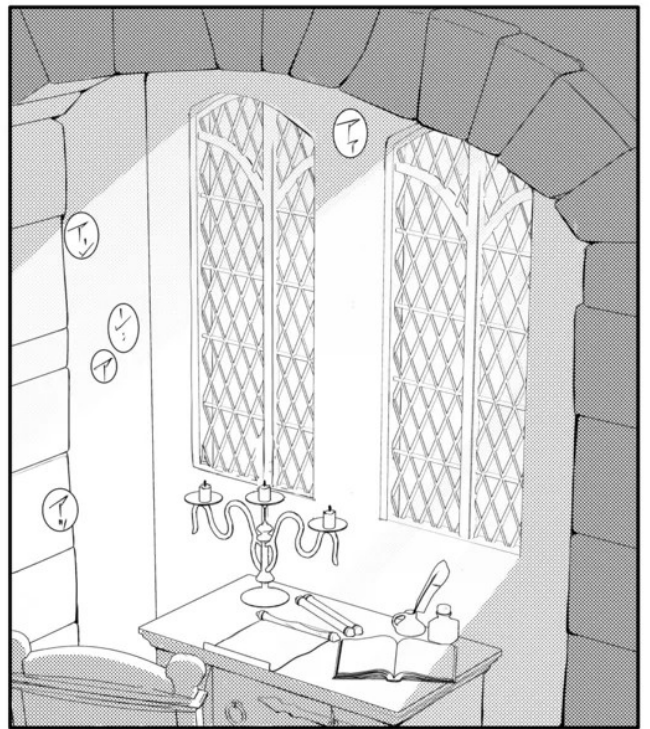
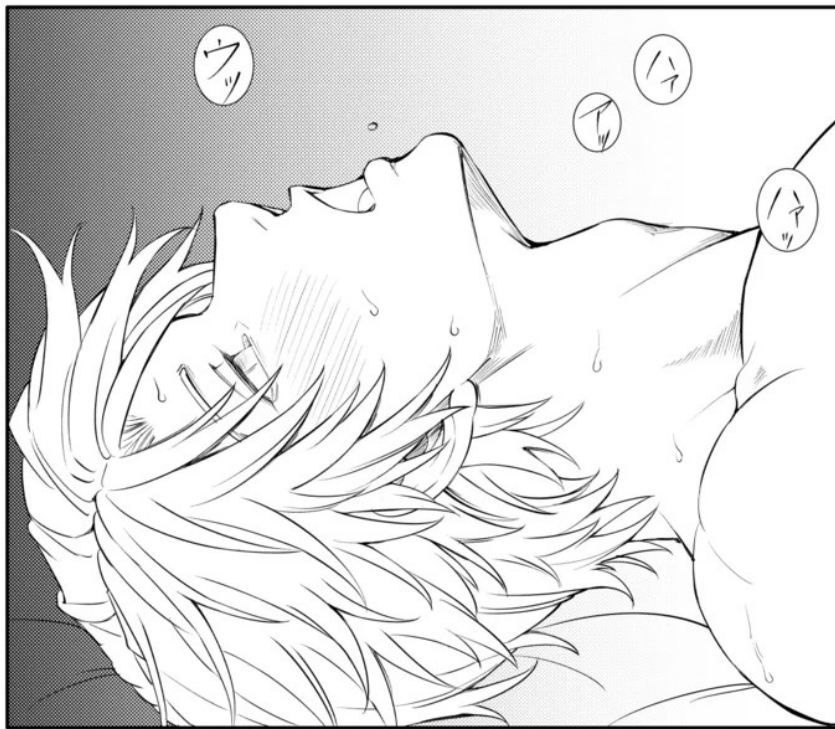


ああ…

レイナード

…嬉しい







陛下より叙任を
賜ってから
間もない頃…

私も同じ
ような経験
をしたのです

辺境の遺跡に
住みついた
ゴブリンの群れ
の討伐

数は多いが、
決して難しい
任務では
なかった…

しかし
それは
震でした

怠惰と色欲の魔神
ベルフェゴール

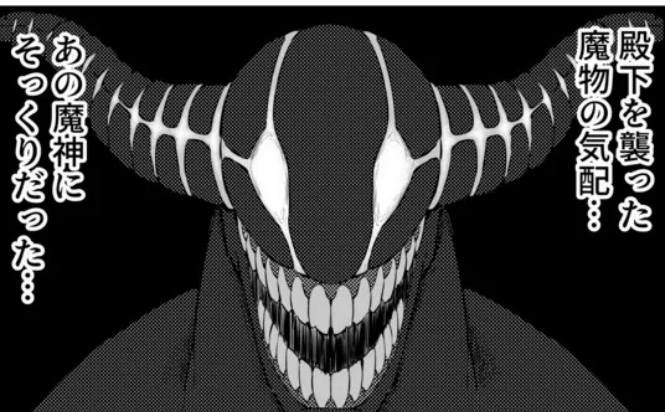
かの魔神の目的は
聖騎士の魂を墮落させ
邪悪なる神に奉げること

奴に捕らえられた私は
幾日も肉体を弄ばれ
凌辱を受け続けた





嫌な予感が
的中した…



殿下を襲った
魔物の気配…

あの魔神に
そっくりだった…



最初から王室を
狙っていたのだ

多発する魔物の
襲撃は全て揺動…

ハフフ?



詳しく調べる
必要が…

あのお…

レイナードオ

はい、
殿下



これ…
駄目みたい…



…左様で

…やってしまった



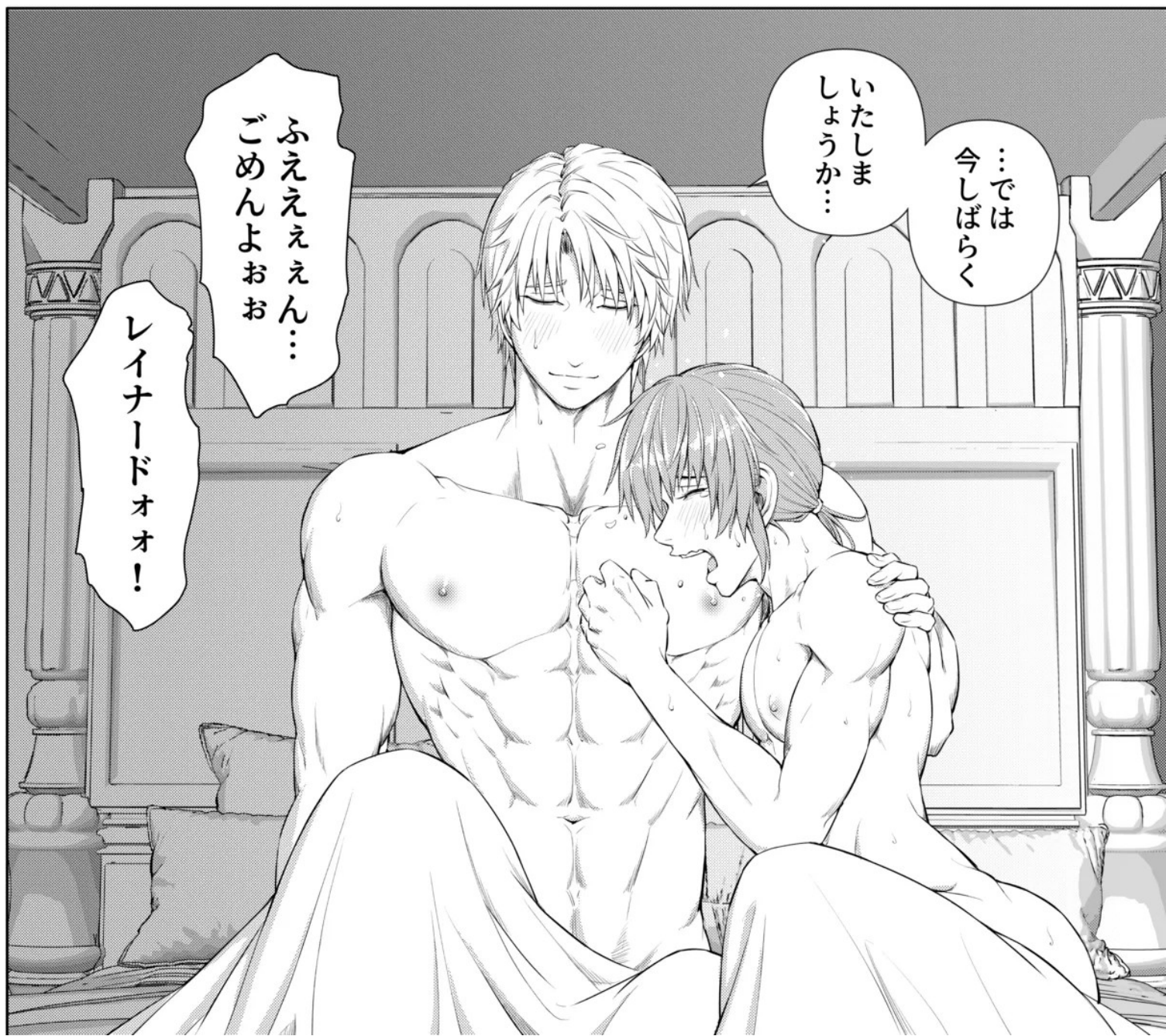
止ん
な
くてえ…

そしたらまた…
どんどん全身が
熱くなってきて…



…その
今の話…
つい想像
しちゃって

いや…



ふええええん…
ごめんよおお

レイナードオオ!

いたしま
しょうか…

…では
今しばらく

ご購入読
誠にありがとう
ございました

